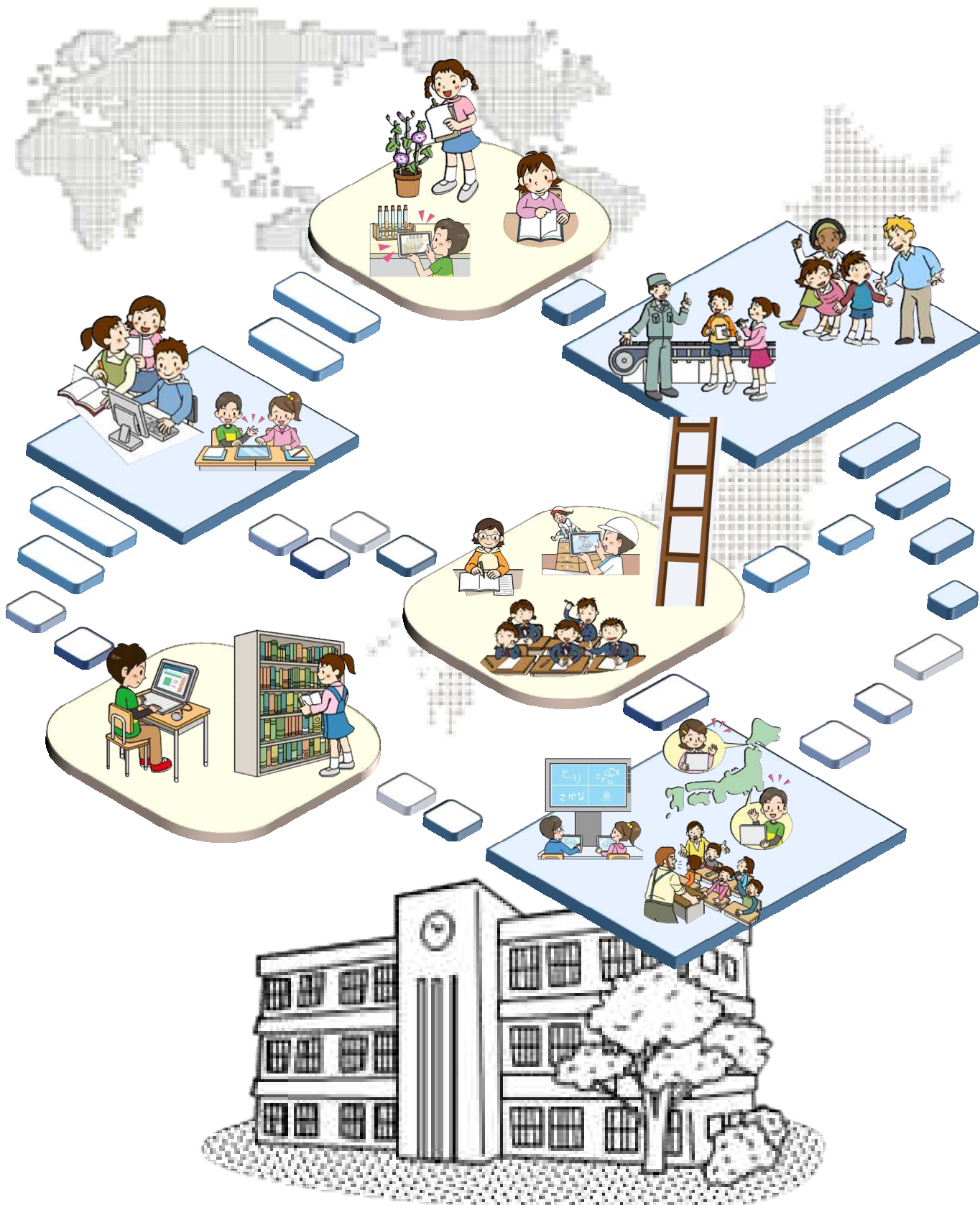


個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実による授業改善 (手引)



目次

1	はじめに～「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて.....	1
2	「個別最適な学び」と「協働的な学び」.....	2
3	「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実.....	4
4	I C Tの活用について.....	4
5	授業改善を図る演習の提案.....	5
6	演習① 学習指導案を土台とした授業の再構築.....	6
7	演習② 単元(題材)など内容や時間のまとまりで考える授業構想.....	8
8	実践プラン例.....	10
9	実践プラン例【小学校】国語科、算数科.....	11
10	実践プラン例【小学校】理科、音楽科.....	12
11	実践プラン例【中学校】社会科、英語科.....	13
12	実践プラン例【中学校】美術科、保健体育科.....	14
13	実践プラン例【高等学校】国語科、数学科.....	15
14	実践プラン例【高等学校】理科、家庭科.....	16

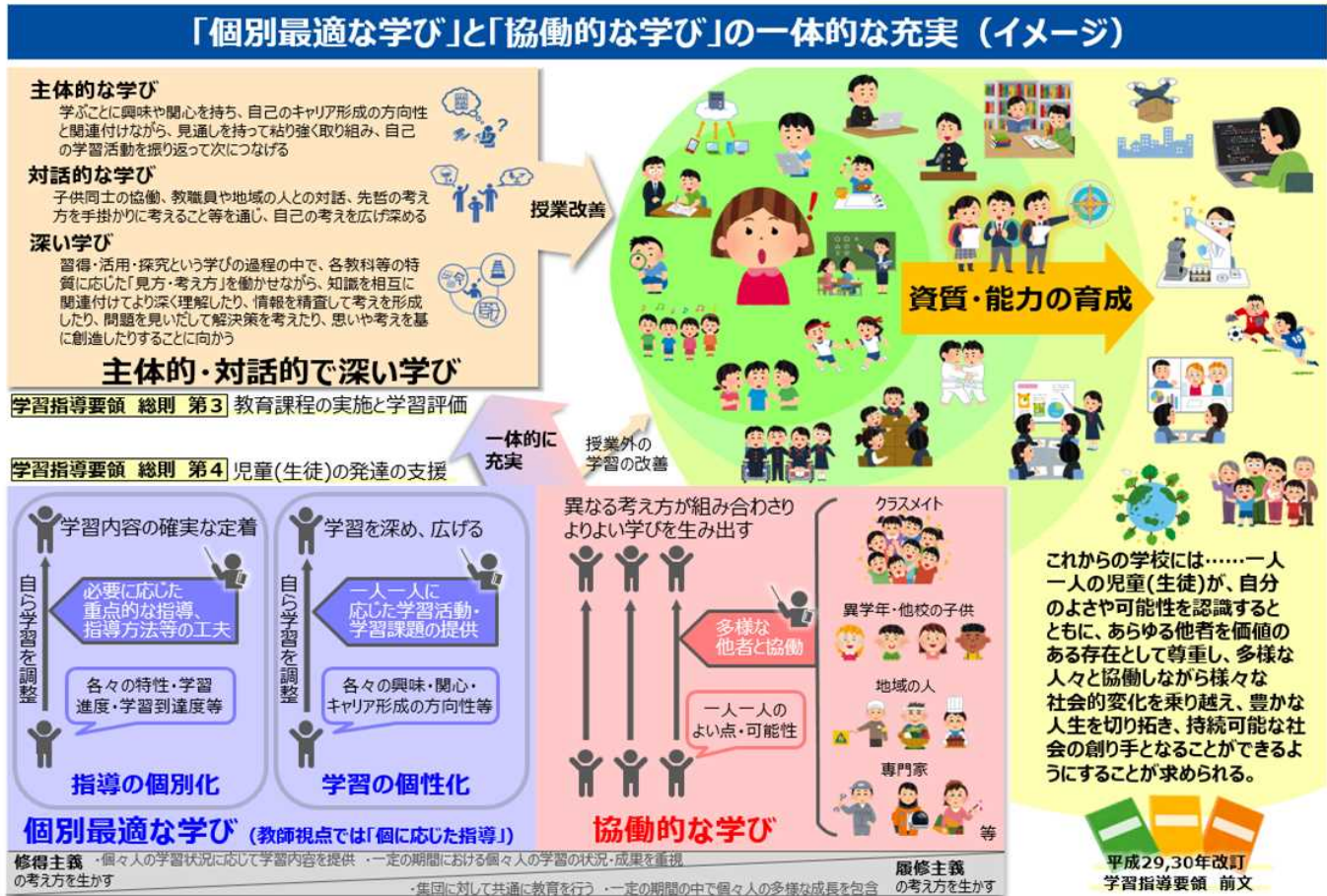
<資料>

○各視点を設定する場面例.....	資料1
○I C T活用一覧表.....	資料2～4
○演習シート①(横).....	資料5
○演習シート②(横).....	資料6
○演習シート②(縦).....	資料7
○演習シート②(縦).....	資料8

1 はじめに～「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて

本手引は、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の視点から、これまでの学習活動や児童生徒の発達支援について捉え直すことで、「主体的・対話的で深い学び」の一層の充実を図り、児童生徒の資質・能力を確実に育成するための授業改善につなげることを目的としています。また、「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」において、基盤的なツールとして必要不可欠なものとして位置付けられているICTの活用についても、効果的な活用場面や活用方法について検討できるよう、ICT活用一覧表を作成しました。

社会の急激な変化に伴い、教室を取り巻く環境や児童生徒の学び方も大きく変化しています。本手引を児童生徒の資質・能力を育む授業改善にお役立てください。



出典：文部科学省ホームページ (https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/senseioun/mext_01542.html)

授業改善に向けて

「主体的・対話的で深い学び」との関係性をどう捉えれば…?

point!

- ・「主体的・対話的で深い学び」の実現を通して資質・能力の確実な育成を図っていく方向性はこれまでと同じです。
- ・「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」の視点を加えて学習活動や教師の支援、ICTの活用を検討することで、「主体的・対話的で深い学び」を更に充実させていくことにつながります。

2 「個別最適な学び」と「協働的な学び」

個別最適な学びって何だろう？

◇「指導の個別化」と「学習の個性化」

「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）令和3年中央教育審議会」（以下「令和3年答申」と略）では、児童生徒一人一人の特性や学習進度、学習到達度等に応じ、指導方法・教材や学習時間等の柔軟な提供・設定を行う「指導の個別化」、児童生徒の興味・関心・キャリア形成の方向性等に応じ、一人一人に応じた学習活動や学習課題に取り組む機会を提供し、児童生徒自身が学習が最適になるよう調整する「学習の個性化」が必要であると述べられています。

これらの考え方は、新しい概念ではなく、これまでも「個に応じた指導」として実践されてきました。「令和3年答申」では「個に応じた指導」を学習者視点から整理した概念が「個別最適な学び」と示されました。

◇「教師視点」から「学習者視点」へ

指導の個別化

- ◇一定の目標を、全ての児童生徒が達成することを目指す
- ◇児童生徒一人一人の特性や学習進度、学習到達度等に応じる
- ◇必要に応じた重点的な指導や指導方法、教材等の工夫をする

学習の個性化

- ◇異なる目標を、一人一人の児童生徒が達成することを目指す
- ◇児童生徒の興味・関心、キャリア形成の方向性等に応じる
- ◇児童生徒一人一人に応じた学習活動や課題に取り組む機会を提供する

◇「個別最適な学び」を取り入れることのできる学習場面例

既習の学習内容を確認する場面

学習課題やめあてを設定する場面

情報を収集する場面

課題の解決に向けた手立てを設定・選択する場面

……
補充的な学習や発展的な学習に取り組む場面

授業改善に向けて

これまでの授業と、どう違うのかな？

point!

- ・これまでも「学習指導の最適化」「個に応じた指導」など、個性や自主性を重視する方向性は示されており、全く異なるものではありません。教師視点から行っていた支援を、学習者である児童生徒の視点から見直そうというものです。
- ・単元（題材）の計画、本時の計画、評価の計画、実施に向けた学習環境の整備など、これまで以上に見通しをもって授業計画を立てておくことが必要になりそうです。

協働的な学びって何だろう？

◇「個別最適な学び」を孤立させない「協働的な学び」

「令和3年答申」では、「『個別最適な学び』が『孤立した学び』に陥らないよう、これまでも『日本型学校教育』において重視されてきた、探究的な学習や体験活動などを通じ、子供同士で、あるいは地域の方々をはじめ多様な他者と協働しながら、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、様々な社会的な変化を乗り越え、持続可能な社会の創り手となることができるよう、必要な資質・能力を育成する『協働的な学び』を充実することも重要である。」と述べられています。

また、「『協働的な学び』においては、集団の中で個が埋没してしまうことがないよう、『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた授業改善につなげ、子供一人一人のよい点や可能性を生かすことで、異なる考え方が組み合わさり、よりよい学びを生み出していくようにすることが大切である。」とも示されています。

「協働的な学び」もこれまでと全く異なる新しい考え方と捉えるのではなく、これまでも様々な場面で取り入れられてきた他者と学び合う学習活動を発展させたものと考えてはどうでしょう。「個別最適な学び」とのつながりやICTの活用を含めて、更に多様で充実した活動にしていくことが求められています。

◇「多様な他者」とはどんな人たち？



クラスメイトと



他校の児童生徒と



地域の人と



専門家と



異なる考え方が組み合わさり、よりよい学びを生み出す

◇「協働的な学び」を取り入れることのできる学習場面例

交流・共有する場面

協議・討論する場面

整理やまとめをする場面

制作(製作)・表現・実践する場面

…… 教室の枠を越えた学びをする場面

授業改善に向けて



「孤立した学びに陥らないように」って、
どういうことだろう？

point!

「個別最適な学び」を孤立させないために、協働的な学びが必要です。「協働的な学び」において、自分とは異なる感性や考え方等に触れ、考えを広げたり深めたりすることにつながります。

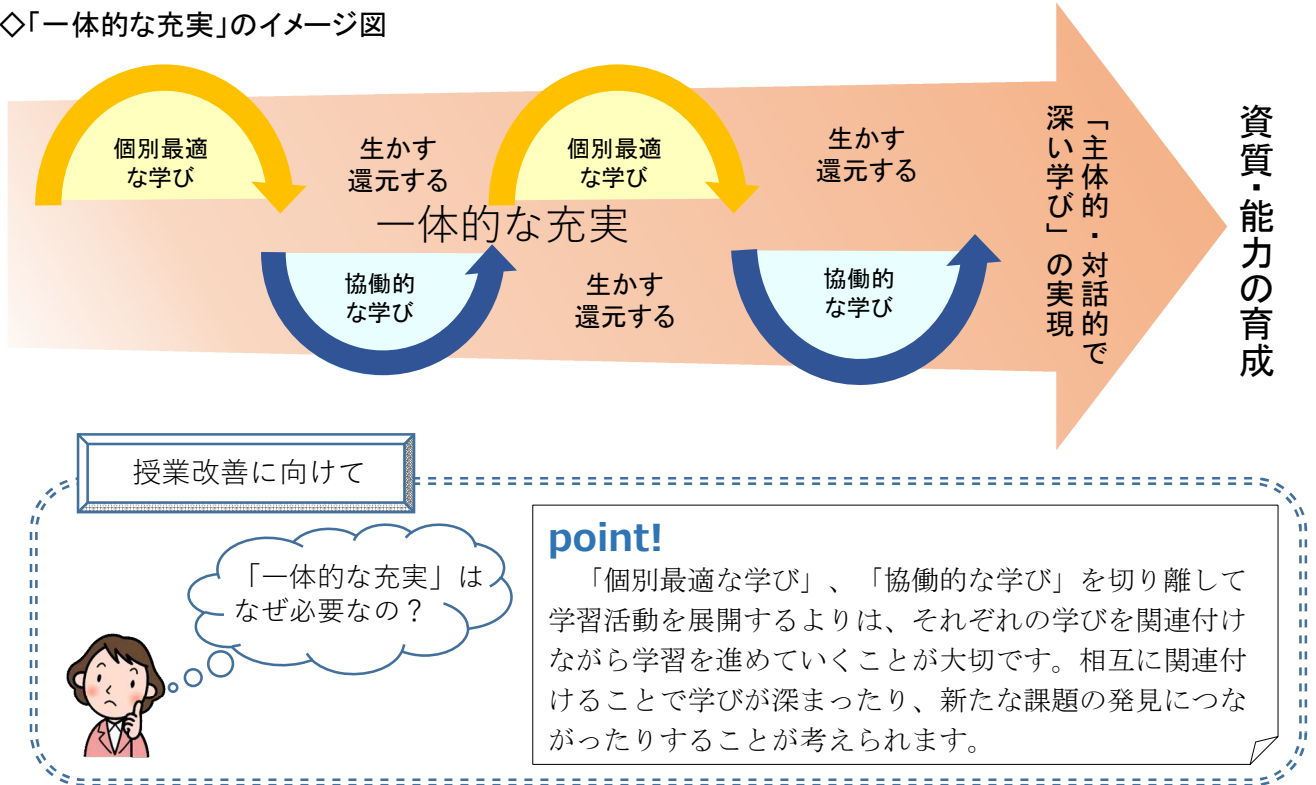
3 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実

一体的な充実に向けて

◇「一体的な充実」と「主体的・対話的で深い学び」の実現

「令和3年答申」では、「学校における授業づくりに当たっては、『個別最適な学び』と『協働的な学び』の要素が組み合わさって実現されていくことが多いと考えられる。各学校においては、教科等の特質に応じて、地域・学校や児童生徒の実情を踏まえながら、授業の中で『個別最適な学び』の成果を『協働的な学び』に生かし、更にその成果を『個別最適な学び』に還元するなど『個別最適な学び』と『協働的な学び』を一体的に充実し、『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた授業改善につなげていくことが必要である。」と述べられています。

◇「一体的な充実」のイメージ図



4 ICTの活用について

ICTの活用

◇「個別最適な学び」「協働的な学び」に必要な不可欠なICTの活用

令和3年答申では、「子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びを実現するためには、学校教育の基盤的なツールとしてICTは必要不可欠なものである。」と述べられています。「個別最適な学び」や「協働的な学び」は、ICTの活用によってはじめて実現される側面もあります。また、これまでの実践とICTを最適に組み合わせることで、学習履歴を活用した学習の進め方の検討や、遠隔地の児童生徒を専門家とつないだ授業など、今までにできなかった学習活動が可能になり、教育の幅が広がるのが期待できます。

一方で、「ICTはこれからの学校教育に必要な不可欠なものであり、基盤的なツールとして最大限活用していく必要があるが、その活用自体が目的でないことに留意が必要である。」とも述べられています。活用する場面や目的を明確にし、資質・能力を育む上で効果的な活用方法を吟味することに留意する必要があります。

付箋紙を用いた「個別最適な学びと協働的な学びの 一体的な充実に向けた授業改善」のための演習

3色の付箋紙を用いた二つの演習を提案します。演習では、「個別最適な学び」は黄、「協働的な学び」は青、「ICTの活用」はピンクとして色分けしています。

個別最適な
学び

協働的な
学び

ICTの
活用

演習①

学習指導案を土台とした授業の再構築

準備する物

- 学習指導案
- 付箋紙 3色
- サインペン
- マーカーペン
- 拡大した学習指導案
- 手引

演習②

単元(題材)など内容や時間のまとまりで考える授業構想

準備する物

- 単元(題材)の計画 または 教科書等のコピー
- 付箋紙 3色
- サインペン
- マーカーペン
- 手引
- 演習シート (手引末の資料5~7のうち、いずれか1枚)

演習では手引末の資料

資料 1

各視点を設定する場面

と

資料 2~4

ICT活用一覧表

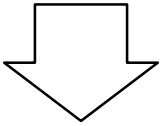
を活用します。

(演習②では資料5~8の演習シートも活用します。)

演習① 学習指導案を土台とした授業の再構築

STEP1
全体

学習指導案を用意し、単元（題材）で育成する資質・能力を確認して、スタート（学習課題やねらい）とゴール（学習課題やねらいを達成した児童生徒の姿）を設定します。



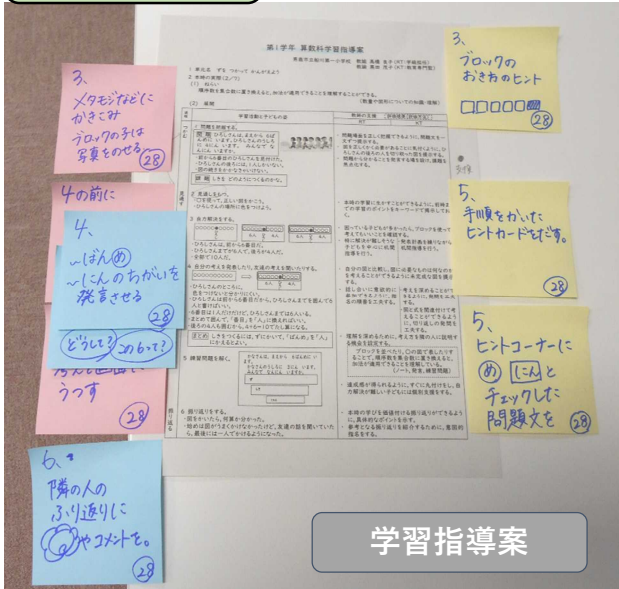
STEP2
全体

「個別最適な学び」「協働的な学び」「ICTの活用」の視点について確認します。

※各視点を設定する場面（資料1）とICT活用一覧表（資料2～4）を参考に設定可能な場面を検討します。

STEP3

学習指導案
【小学校算数科】



学習指導案

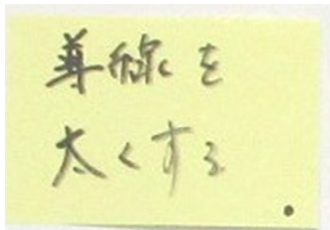
STEP3
個人

児童生徒の思考に沿って、学習活動や教師の支援について具体的に付箋紙に記述し、学習指導案に貼ります。

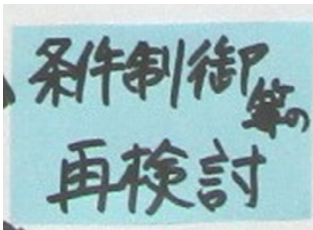
STEP3

【小学校理科】

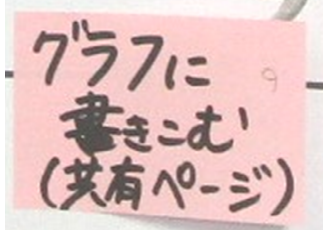
学習課題 電磁石を強くするには、どうすればよいだろうか。



個別最適な学び

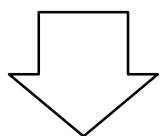


協働的な学び

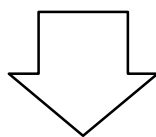


ICTの活用

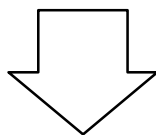
STEP4 グループ



STEP5 グループ



STEP6 全体



STEP7 個人

STEP 3 の付箋紙を貼った学習指導案を持ち寄り、拡大した学習指導案にその付箋紙を貼り付け、学習活動の流れを話し合います。

「一体的な充実」の視点で付箋紙を関連付け、貼り直したり補筆したりしながら学習活動の流れに沿って構造化します。

グループごとに演習内容を報告し、共有します。

演習を通して、学習指導案に反映させたい部分を再検討します。

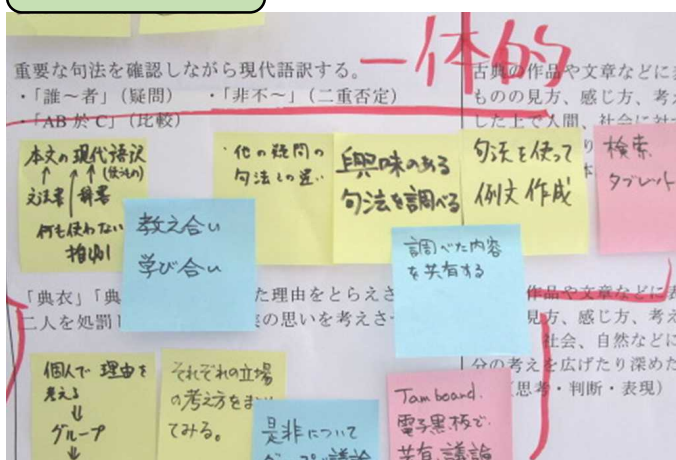
STEP4

【中学校数学科】



STEP5

【高等学校国語科】



STEP7

教師の支援【小学校算数科】

- 位取りや数の線の学習シートを用意し、自分で選択して取り組めるようにする。**個 I**
- 数の大小を判別した理由を説明できるように、文型を示す。
- 自力解決した学習シートの写真を電子黒板に映して説明させることで、それぞれの比べ方を視覚的に捉えやすくする。**I**
- 「速くて簡単な比べ方はどれか」と問うことで、百の位の数から比べるよさに気付くようにする。**協**

個 別最適な学びの視点

協 働的な学びの視点

I C T 活用の視点

演習②

単元(題材)など内容や時間のまとまりで考える授業構想

〈例〉小学校第3学年「3けたの数に1けたの数をかける計算」

STEP1
全体

単元(題材)など内容や時間のまとまりで育成する資質・能力、学習課題や、ねらいを達成した児童生徒の姿を設定します。

STEP1

単元計画例(抜粋)

8	・3位数×1位数(部分積がみな1桁)の筆算の仕方について、2位数×1位数の筆算の仕方を基に考え説明することができる。	①問題場面を捉え、立式する。 ②312×3の計算の仕方を考える。 ③312×3の筆算の仕方を考える。 ④筆算の仕方をまとめる。
9	・3位数×1位数(部分積がみな2桁、及び部分積を加えたときに繰り上がりあり)の筆算の仕方について、既習の乗法の筆算の仕方を基に考え説明することができる。	①386×2の筆算の仕方を考える。 ②937×4の筆算の仕方を考える。

STEP2
全体

「個別最適な学び」「協働的な学び」「ICTの活用」の視点について確認します。

※各視点を設定する場面(資料1)とICT活用一覧表(資料2～4)を参考に設定可能な場面などを検討します。

STEP3

教科書例(抜粋)

STEP3
個人

児童生徒の思考に沿って、学習活動や教師の支援について具体的に付箋紙に記述し、単元(題材)計画や教科書のコピーに貼ります。

386×2, 937×4の筆算のしかたを説明しましょう。

筆算のしかたを考えよう。

$\begin{array}{r} 386 \\ \times 2 \\ \hline 12 \dots \square \times 2 \\ 160 \dots \square \times 2 \\ 600 \dots \square \times 2 \end{array}$	$\begin{array}{r} 937 \\ \times 4 \\ \hline 28 \dots \square \times 4 \\ 120 \dots \square \times 4 \\ 3600 \dots \square \times 4 \end{array}$
--	---

?

くり上がりはどうすればいいかな。

STEP4 グループ

STEP 3 で付箋紙を貼った
単元（題材）計画などを
持ち寄り、演習シートに
その付箋紙を貼り付け、
学習活動の流れを話し合
います。

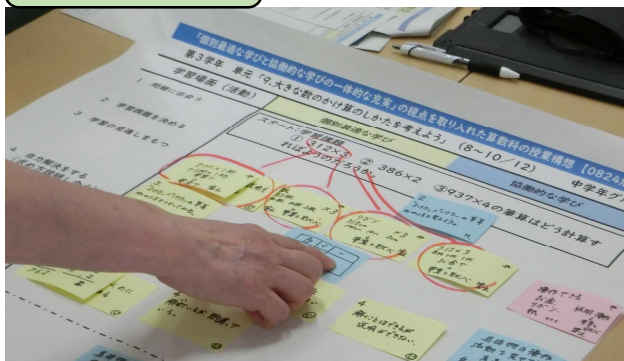
STEP4



STEP5 グループ

「一体的な充実」の視点
で付箋紙を関連付け、貼
り直したり、補筆したり
しながら学習活動の流れ
に沿って構造化します。

STEP5



STEP6 全体

グループごとに演習内容
を報告し、共有します。

STEP6



STEP7 個人

演習を通して、単元（題
材）計画に反映させたい
部分を再検討します。

STEP7



8 実践プラン例

実践プラン例の構成は次のとおりです。学習計画や各視点における学習活動などを掲載しています。

中学校 第2学年 社会科 単元名「東北地方」 (内容のまとまりの一部を単元とするケース)

第1時～第4時の目標 全5時間

・東北地方において、東北三大祭りの歴史や文化、観光と交通や産業との関わりに着目し、他の事象やそこで生ずる課題を多角的に考察し、表現する。

目標・学習課題

単元の全体計画

- 1 学習課題を設定する
- 2 学習課題に対する予想を立てる
- 3 課題の解決に向けた手立てを設定、選択する (1時間)
- 4 **学習計画**
- 5 他者と確認する
- 6 予想を再検証する (3時間)
- 7 全体で確認する
- 8 単元の学習課題に対するまとめをする
- 9 単元を振り返る (1時間)

学習課題 なぜ、東北三大祭りは、日程が重なっているのだろうか？

個・既得知識や生活経験と新たに出会った社会的事象の比較を通して学習課題を設定し、予想を立てる。
・課題の解決に向けた手立てを検証する手立てを考え、選択し、調査活動の計画を立てる。

個別最適な学び

I・学習課題を設定するために諸資料等を電子黒板に映し出し比較

ICTの活用

・多様な意見を知るためweb会議ツールで、インタビューをする。
(③F)

協・検証の精度を高めるために、自身と他者の資料や検証内容を比較したり、当事者や専門家等にインタビューをしたりする。
・収録したインタビューの内容を可視化した資料をグループ活動で授業支援アプリの共同編集機能を活用する。

協働的な学び

・議論を深めるため、プレゼンテーションソフトを活用し、互いの成果を見せ合う。
(④B)

充・学習課題を解決するための資料や手立てを取り入れる。
・学習者同士で互いの考えを聞き取り、助言したりする。

一体的な充実

ねらいを達成した生徒の姿

東北地方の祭りを訪れる観光客に移動の特色と、産業の動向などを捉えて自分の考えを説明し、まとめている。

評価

移動といった物資や人々の結び付きや地域変容を

ICTの活用

に示す(②A)、(③F)等の表記は、資料2～4のICT活用一覧表に対応している。

個 は「個別最適な学び」 **協** は「協働的な学び」 **充** は「一体的な充実」

I は「ICTの活用」をそれぞれ示す。

小学校 第5学年 国語科 単元名「からたちの花」

第1時・第2時の目標 全2時間

・詩の表現の効果を踏まえ、作品の全体像を具体的に想像することができる。

単元全体の計画

- 1 印象に残った表現に着目し、「くり返し」の表現効果について考える (1時間)
- 2 「くり返し」の表現効果を共有し、詩全体のイメージを捉える (1時間)

学習課題

表現のとくちょうから、どんな詩のイメージをもつことができるだろう。

個・表現の特徴を捉えるため、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して「くり返し」の表現に着目し、自分で追究したい表現を選択する。
・表現の効果を考えるために、「くり返し」のない表現や別の表現との差異を比較する。

I・情景をイメージするため、からたちの花や垣根などの画像等や挿絵を検索する。(③A)
・詩を1人1台端末に配信し、くり返しの表現にマーキングする。(④B)
・グループの考えを電子黒板に投影し、全体で共有する。(⑤C)

協・同じ表現を選択したグループ内で表現の効果を吟味し、考えを修正、補強する。
・全てのグループの考えを共有し、複数箇所の「くり返し」の表現の効果を関連付けながら、詩全体のイメージをまとめる。

充・個の考えを基に、グループ内やグループ間で追究した表現の効果や内容の解釈とを吟味することで思考を広げたり深めたりし、個々の表現の効果を関連付けながら詩全体のイメージをまとめていく。

ねらいを達成した児童の姿
「くり返し」の表現の効果を踏まえ、自分の解釈や各グループで話し合ったことを関連付けて詩の理解を深め、全体のイメージをまとめている。

小学校 第3学年 算数科 単元名「大きな数のかけ算のしかたを考えよう」

第7時～第9時の目標 全12時間

・数量の関係に着目し、3位数×1位数の筆算の仕方を考え、説明している。

単元全体の計画

- 1 何十、何百×1位数の計算 (2時間)
- 2 2位数×1位数の筆算の仕方 (4時間)
- 3 3位数×1位数の筆算の仕方 (2時間)
- 4 3位数×1位数の筆算の仕方の共有 (1時間)
- 5 乗法の結合則 (1時間)
- 6 学習内容の定着と振り返り (2時間)

学習問題と課題

(1) 312×3 (2) 386×2 (3) 937×4 の筆算は、どのように計算すればよいだろうか。

個・2位数×1位数の筆算の仕方を基に、3位数×1位数の筆算の仕方を類推的に考え、解決の見通しをもつ。
・解決のための学習の進め方を考える。

「取り組む問題の順番」「学習形態」「解決のために必要な物」「筆算の仕方を説明する方法」「答えの確認の仕方」「練習問題での確認」など

I・他の児童の学習の進捗状況を、電子黒板や1人1台端末で確認し、自らの問題解決の参考にする。(③B)
・筆算の仕方を説明するため、ノートの内容を画像化したり、筆算の仕方の説明動画を作成したりする。(⑤C)

協・問題(1)～(3)の筆算の仕方について、2位数×1位数との共通点や相違点、乗法に関する大切な考えなどを話し合う。
・問題解決の過程や結果を振り返るとともに、練習問題を解き、自らの学びを確認する。

充・これまで学習してきた乗法の意味や、十進法位取り記数法や乗法九九などを基に、3位数×1位数の筆算の仕方を具体物、図、数、式などを用いて表現し、確かめている。

ねらいを達成した児童の姿
数量の関係に着目し、3位数×1位数の筆算の仕方を、具体物、図、数、式などを用いて説明している。

小学校 第5学年 理科 単元名「物のとけ方」

第1時・第2時の目標 全3時間

・水に溶けた食塩の行方についての予想や仮説を基に、解決の方法を発想し、表現することができる。

<p>単元全体の計画</p> <p>1 食塩が水にとける様子から問題を見だし、「見えなくなった食塩は、水の中にある」などの予想に対する解決の方法を発想する (1時間)</p> <p>2 前時に発想した方法で検証し、他の児童と結果や考えを共有して考察する (1時間)</p> <p>3 ろ過や顕微鏡による観察など、問題の解決に結び付かなかった検証結果から、規則性や新たな問題を見いだす (1時間)</p>	<p>学習問題 水にとけて見えなくなった食塩は、どこにあるのだろうか。</p> <p>個・問題を解決するための検証方法を、それぞれの予想に合わせて個人で発想し、図や文で表現する。 例)「溶かす前後の重さを比較」「水を蒸発」「ろ過」「顕微鏡で観察」「大量の食塩を入れてみる」など</p> <p>協・個で発想した検証方法が、科学的で目的に合ったものかどうかを全体で検討する。 ※自分で発想できない児童は、他の児童の方法から選択し、選択の理由を表現する活動が考えられる。</p> <p>個・個、または同じ検証方法を選択したペアなどで実験を行う。</p> <p>協・共有した複数の結果を基に、多面的に考えて結論付けるとともに、検証方法の妥当性を検討する。</p> <p>充・問題を科学的に解決する過程において、個として検証方法の発想や実験結果が得られれば、客観的でより妥当な考えをつくりだすために、協働的な学びが必然となる。協働的な学びにより考えを深めた後に、個で自身の問題解決の過程を振り返り、次の問題につなげる。</p>	<p>I・他の児童が検討できるように、個で発想した検証方法を共有する。(④A)</p> <p>I・それぞれが行った検証結果を個の考察に生かすために、実験などの様子を記録し、共有する。(⑤A)</p>
<p>ねらいを達成した児童の姿 水に溶けた食塩の行方について追求する中で、予想や仮説を基に、科学的な解決の方法を発想し、図や文で表現している。</p>		

小学校 第3学年 音楽科 題材名「『山のポルカ』のかんじを生かして演奏しよう」

第3時の目標 全3時間

・「山のポルカ」の曲の特徴を捉えた表現を工夫してリコーダーを演奏する。

<p>題材全体の計画</p> <p>1 旋律の特徴を捉えながら、リコーダーの範奏を聴く</p> <p>2 運指に気を付けて曲全体を演奏する (1時間)</p> <p>3 リズム、反復、旋律などをよりどころにして、「山のポルカ」の特徴への気付きを深める (1時間)</p> <p>4 思いや意図に合った表現をするために必要な、リコーダーの演奏の仕方に関する知識と技能を身に付けて演奏する</p> <p>5 グループごとに、表現を工夫した「山のポルカ」の演奏を発表する (1時間)</p>	<p>学習課題 「山のポルカ」のかんじをあらわすには、どんな工夫をして演奏すればよいだろうか。</p> <p>個・練習曲を使って、息の使い方やタンギングの練習をする。 ・様々なリズムパターンを使って、タンギングをはっきりさせて演奏する練習をする。 ・ソロパートや簡単に演奏できる部分を設定し、児童が自分の進度に合わせて演奏する部分を選択する。</p> <p>協・ペアやグループで互いの演奏を見合ったり、聴き合ったりしながら、息の使い方やタンギングに着目して自分の演奏を確認する。 ・「山のポルカ」のかんじが表されているかをグループ同士で評価し合い、自分の演奏を振り返る。</p> <p>充・個人で練習した演奏をペアやグループで合奏したりすることにより、表現の違いに気付き、思いや意図をもって表現を工夫する。</p>	<p>I・電子黒板に運指表を映して、指と音との一致を視覚的に捉える。(⑥A)</p> <p>・演奏の様子を動画で撮影し、グループで改善点を見いだす。(④G)</p> <p>・ポルカの踊りの動画を鑑賞して、「山のポルカ」のかんじをイメージする。(④A)</p>
<p>ねらいを達成した児童の姿 旋律の動きにふさわしい息の強さやタンギングに気を付けて、表現を工夫しながら演奏している。</p>		

中学校 第2学年 社会科 単元名「東北地方」(内容のまとまりの一部を単元とするケース)

第1時～第4時の目標 全5時間

・東北地方において、東北三大祭りの日程が重なっている理由を、祭りと交通や産業との関わりに着目し、他の事象やそこで生ずる課題と有機的に関連付けて多面的・多角的に考察し、表現する。

単元の全体計画

- 1 学習課題を設定する
- 2 学習課題に対する予想を立てる
- 3 課題の解決に向けた手立てを設定、選択する (1時間)
- 4 予想を検証する
- 5 他者と確認する
- 6 予想を再検証する (3時間)
- 7 全体で確認する
- 8 単元の学習課題に対するまとめをする
- 9 単元を振り返る (1時間)

学習課題 なぜ、東北三大祭りは、日程が重なっているのだろうか。

① ・既得知識や生活経験と新たに出会った社会的事象の比較を通して学習課題を設定し、予想をする。
・課題解決の見通しをもつため、個で予想を検証する手立てを考え、選択し、調査活動の計画を立てる。

② ・検証の精度を高めるために、自身と他者の資料や検証内容を比較したり、当事者や専門家等にインタビューをしたりする。
・収集した情報を整理、分析したり、他者の思考を可視化したりするために、グループ活動で授業支援アプリの共同編集機能を活用する。

③ ・学習課題を解決するための資料や手立ての共有に向けて、他者を参考にして取り入れたり、自分の検証方法を基に他者に助言したりする。

I ・学習課題を設定するために諸資料等を電子黒板に映し出し比較する。(②A)

・多様な意見を知るためweb会議ツールで、インタビューをする。(③F)

・議論を深めるため、プレゼンテーションソフトを活用し、互いの成果を見せ合う。(④B)

ねらいを達成した生徒の姿

東北地方の祭りを訪れる観光客に着目し、観光地の成立と観光客の移動といった物資や人々の移動の特色と、産業の動向などを関連付けて課題を追究し、地域間の結び付きや地域変容を捉えて自分の考えを説明し、まとめている。

中学校 第3学年 英語科 単元名 Stage Activity 2 Discover Japan

第2時・第3時の目標 全4時間

・秋田を知りたいと思っている初来日のALTに日本の魅力を知ってもらうために、秋田特有のものについて、事実に加えて、英語で自分の経験や感想を交えて書くことができる。

【秋田can-do】Stage 4 書く「日常的な話題について、聞いたり読んだりして得た情報を基に、簡単な語句や表現を用いて、自分の意見や感想を書くことができる。」

学習課題 ALTの先生に、秋田を気に入ってもらうために秋田の紹介文を書こう。

単元全体の計画

- 1 単元の見通し(1時間)
- 2 原稿作成 発表準備(1時間)
- 3 発表、共有(1時間)
- 4 パンフレット作成(1時間)

① ・題材選定…話題にする秋田の文化を探す。
・原稿作成…未知の表現を英訳する。
・状況確認…自らの紹介文を客観的に見て、改善点を探る。

② ・状況確認…互いの紹介文を見て、改善点を協議する。

観点例 ・相手に伝わるか。
・自分の困りごととは何か。
・他の生徒のよいところはどこか。
・自分のものをどのように改善できるか。

③ ・相手意識をもった、紹介文の構成となっているのかを適宜検証する。(紹介しているものはALTの好みに沿っているか。英文は理解してもらえるのか。等)

I ・題材選定 ALTの好みに沿った秋田の文化を探す。(③F)

・原稿作成 決められた活用範囲に沿って活用する。(④D) (⑤E)

・比較・検討 他の紹介文と観点に沿って比較や検討をする。(⑤B) (⑤E) (⑤G)

ねらいを達成した生徒の姿

伝える相手であるALTの好みに沿うなど相手意識をもって、秋田特有のものを、事実に加えて、英語で自分の経験や感想を交えて書いている。

中学校 第2学年 美術科 題材名「レオナルドとその時代」

第1時・第2時の目標 全2時間

・造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の表現の意図と創造的な工夫などについてを考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深める。

題材全体の計画

- 1 レオナルド・ダ・ヴィンチが描いた「最後の晩餐」を鑑賞し、作品に対する自分の考えをもつ (1時間)
- 2 作品に対する感じ方や考えを生徒同士で交流し、課題についてまとめる (1時間)

学習課題

レオナルド・ダ・ヴィンチの絵画が芸術の傑作と言われるのはなぜだろうか。

① 形や色彩、明暗などに視点を当て、造形的なよさや美しさなどを感覚的に感じ取る。
 ・課題を解決するために、自分が追究したい視点で詳しく調べることを通して、作品のよさを深く感じ取る。

〈鑑賞の視点の例〉
 形や色彩、作品の構成、表現技法
 作者の内面や生き方
 作者が生きた時代の文化的な背景 など

② 作品に対する感じ方や考えを、鑑賞の視点グループごとに交流し、課題について話し合いを深める。
 ・グループの話し合いを全体で共有し、作品に対する見方や感じ方を一層深める。

③ インターネットを活用して作者や作品についての情報を集める。(3F)

・1人1台端末に保存した作品の画像を提示しながら、感じたことや考えたことを説明する。(4B)

・付箋紙機能を活用し、グループでの話し合いの内容を整理したり全体で共有したりする。(5E)

④ 一人一人の興味・関心に応じた個の活動を通して、生徒自身が作品に対する価値を明確にもてるようにする。
 ・生徒同士で自分の感じたことや作品についての考えを根拠を明らかにして述べたり批評したりしながら自分の気付かなかった作品のよさを発見できるようにする。

ねらいを達成した生徒の姿
 レオナルドやルネサンスの美術の造形的なよさを感じ取り、新たな創造を目指したレオナルドの表現の意図と工夫などについて関連付けて捉え、自分なりの根拠をもって考えを学習シートにまとめている。

中学校 第1学年 保健体育科 単元名「柔道」

第4時・第5時の目標 全9時間

・相手の動きに応じた基本動作を用いて、簡易な攻防の中で相手を抑え込むことができる。

単元の学習計画

- 1 学習の見通しをもつ (1時間)
- 2 基本動作と受け身を習得する (2時間)
- 3 固め技の動きのポイントの整理と学習の進め方を考え、ペアで練習をする (1時間)
- 4 課題解決に向けグループで練習する (1時間)
- 5 投げ技を習得する (3時間)
- 6 まとめをして、学習を振り返る (1時間)

学習課題

固め技で相手を逃がさないようにするためには、どのような工夫をしたらよいだろうか。

① 固め技の形や手足の動きなどのポイントを整理する。
 ・固め技の練習の仕方や技の確認など、学習の進め方を考える。

② 技のかけ手と受け手の二つの視点でよかった点や改善点を伝え合い、練習に生かす。
 ・全体で考えを共有し、「する・見る・支える・知る」などの多様な関わりを通して、より多くの視点や気付きから個人の課題を捉え直す。

③ 個の考えを基に、ペアやグループで追求した技術を生かし、実践形式に近い活動に挑戦することで、実感を伴う深い気付きにつながられるようにする。また、付箋紙機能を使い、他のグループの考えを共有することで、視点や考えの幅を広げられるようにする。

④ 固め技を実際の映像で確認する。(1A)(2A)

・タブレット端末で、生徒が実際に固め技をかけている姿を撮り、グループで意見を共有する。(4D)

・付箋紙機能を使い、グループで出された意見を全体で共有し、ポイントを整理する。(2A)(2C)

ねらいを達成した生徒の姿
 相手の動きに応じて、体をさばいたり移動させたりしながら、抑え込みの三条件を満たして、相手を抑え込んでいる。

高等学校 第1学年 国語科 言語文化

単元名 「古典の和歌を現代の言葉で書き換えよう！」

第3時・第4時の目標 全5時間

・作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、自分の考えをもつことができる。

単元全体の計画

1 万葉集、古今和歌集、新古今和歌集の解釈 (2時間)

(1) 古典の和歌を現代の言葉に書き換えよう (1時間)

(2) 古典の和歌を現代の言葉に書き換えよう (1時間)

2 発表、共有、振り返り (1時間)

学習課題

古典の和歌を、どのように現代の言葉で書き換えたらよだろう。

個 ・学習する古典の和歌の中から1首を選択し、できるだけ歌意が同じになるように、現代の言葉で三十一文字に書き換える。
・学習場所は、教室や図書館など、自分で選択する。

I ・調べ学習の際は、1人1台端末などを使用する。(③F)
・発表の際は、書き換えた和歌を効果的に伝えるために、プレゼンテーションソフトを活用する。(⑤E)

協 ・同じ和歌を選択した生徒をグループにする。
・工夫した点などを含めて、書き換えた和歌を紹介し合う。
・解釈や言葉の使い方の違いなど、自分の考えが深まったり広がったりした点については、メモをする。
・グループでの話し合いを受けて、書き換えた和歌を推敲し完成させる。

充 ・個人で書き換えた和歌をグループで話し合うことにより、解釈や言葉の使い方などの違いに気づき、推敲することでより考えが深まるようにする。

ねらいを達成した生徒の姿
既習の和歌の歌意を踏まえ、グループでの話し合いを通して、現代の言葉で自分なりの三十一文字を作成している。

高等学校 数学科 数学B 第3章「数列」第3節「漸化式と数学的帰納法」

第1時・第2時の目標 全5時間

・漸化式について理解し、事象の変化を漸化式で表したり、簡単な漸化式で表された数列の一般項を求めたりできるようになる。

第3節の計画

1 漸化式(基本解法) (1時間)

2 漸化式(演習) (1時間)

3 漸化式(特性方程式) (1時間)

4 漸化式と図形 (1時間)

5 課題学習 (1時間)

学習問題と課題

ハノイの塔を完成させる最短の操作回数を表す漸化式をつくるには？

個 ・ハノイの塔のモデルを用いて実験を行う。
・円盤の枚数を変えながら、n番目付近での円盤の動きに着目し、数列の考えを問題解決に活用する。
・見いだした関係を数学的に表現する。他者への説明を前提に、プレゼンテーションを作成する。
・小中学校で学んだ規則性など、既習とのつながりを確認する。

I ・試行錯誤をさせる際に、円盤操作のシミュレーションで活用する。(②A)
・他者と意見を交換する際に、漸化式を図や表、式で表したり、動画を作成したりする。(⑤C)

協 ・事象の再帰的な関係について、意見を交換する。
・見付け出した数学的な性質から漸化式をつくるために着目した点などについて、意見を交換する。
・他者の見付けた再帰的な関係から、自らが見付けた再帰的な関係を多面的に考察する。

充 ・学習形態の選択や電子黒板・タブレットの活用により、「個別最適な学び」において、他者と関わりながら学習を進める。
・事象における再帰的な関係を漸化式で表すことを通して、漸化式の有用性や一般項を求める意味を理解する。
・数理的なゲームやパズルの中に数学的な要素を見だし、数学と文化の人間との関わりについての認識を深める。

ねらいを達成した生徒の姿
事象の再帰的な関係を見だし、その関係を他者に説明できたり、数列の一般項を求めたりすることができる。

高等学校 理科 生物基礎 単元名「神経系と内分泌系による調節」

第10時の目標 全11時間

・糖尿病患者の血糖濃度が高いままである要因を、資料から見いだして表現する。

単元全体の計画

- 1 運動と心拍数の変化との関係性を見だし表現する (2時間)
- 2 交感神経と副交感神経の働きについて理解する (1時間)
- 3 内分泌系が働く仕組みについて理解する (1時間)
- 4 フィードバック調節について理解する (2時間)
- 5 血糖濃度の調節とホルモンの働きとの関係性を見だして表現する (2時間)
- 6 血糖濃度が上昇したときの調節の仕組みについて理解する (1時間)
- 7 糖尿病患者の血糖濃度が高いままである要因を、見いだして表現する (1時間)
- 8 確認テストを行う (1時間)

学習課題

なぜ、糖尿病患者の血糖濃度は、高いままで下がらないのだろうか。原因として考えられることをいくつか、理由を示して説明しよう。

①

- ・実験の結果を処理し、分析・解釈する。
- ・考察・推論したことをまとめる。
- ・資料(図)の内容を比較したり、関係付けたりしながらまとめる。

①

- ・電子黒板に個々のまとめを映し、問題解決の参考にできるようにする。(③B)
- ・説明する際に、電子黒板に根拠を提示する。(④G)
- ・根拠をスライドやワークシートに記入する。(⑤C)

②

- ・実験の結果や資料(図)を基に自らが考察した内容について、他の生徒と確認し合う。
- ・新たな資料(グラフ)にある複数の濃度変化を表すグラフから考察・推論した内容を、既習の内容を根拠として用い、他の生徒に説明する。

③

- ・他の生徒と確認し合った後に再度個人で取り組み、新たな疑問の解決方法を確認するなど、次の学習の見通しをもつ。
- ・個人での取組と他の生徒との協議等を交互に実施し、科学的な根拠に基づいて考察し、理由を示して表現する力を養う。

ねらいを達成した生徒の姿

糖尿病患者の血糖濃度が高いままである要因について、資料から読みとったことを根拠として示しながら、科学的に考察した内容を表現している。

高等学校 第2学年 家庭科 単元名「経済的に自立した人生を送るために」

第1時の目標 全15時間

本時の学習計画

- 1 「経済的に自立する」とはどのようなことか、現時点の自分の考えを記入する
- 2 単元を貫く学習課題と、本時の目標を確認する
- 3 事例を読み、Aさんの選択に対する自分の意見を記入する
- 4 判断する際に疑問に感じた点などについてICT等を用いて調べ、プレゼンテーションソフトを用いてまとめる
- 5 調べたことを踏まえて、事例について再検討し、Aさんへの根拠を明確にしたアドバイスとなるよう、自分の考えをまとめ、全体で共有する
- 6 「経済的な自立」に向けた自己の課題を考え、まとめる

本時のねらい

経済的に自立に向けた自己の課題を考え、まとめることができる。

①

- ・Aさんの消費行動や家計管理等に係る判断に対するアドバイスを考える。
- ・感情論ではなく、根拠のある適切なアドバイスとなるよう、事例内の疑問点等を調べる。
- ・調べる方法や、内容、誰と調べるか等を生徒自身が選択する。
- ・事例の問題点について、将来のライフスタイルと照らし合わせて、その解決方法を考えたり、実際の生活や地域社会で生かす場面を想定したりしながら、生徒自身の課題を見いだす。

①

- ・自身の考えを裏付けるための情報を得る手段として1人1台端末を活用する。(③F)
- ・調べた内容を、他者と共有するため、プレゼンテーションソフトを活用し、まとめる。(③E)
- ・作成した資料は、ポートフォリオとして、単元を貫く学習課題に対する自身の考えを深め、整理するために活用する。(⑤C)

②

- ・退職金や引っ越し費用、家計管理など、どのような点に着目したか、また調べた結果何が分かったか、Aさんにどのようなアドバイスをするかなどを紹介し合う。
- ・他者の発表から得た新たな気付きを踏まえ、経済的な自立に必要なことを再考する。

③

- ・個々の調べ学習と、他者との情報共有を通じて、「経済的に自立する」ことについて、考えを深めたり、生徒自身の問題を見いだしたりする。
- ・「経済的に自立する」ことについて生徒自身の問題と関連させて考えることで、学ぶ意義を認識するとともに、単元を通じた学習の見通しをもつ。

ねらいを達成した生徒の姿

「経済的に自立する」ことについて、高校卒業後のライフスタイルや生涯設計と関連付けて考え、単元を通じてどのような力を身に付ける必要があるかをまとめている。

各視点を設定する場面例

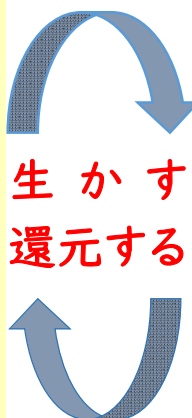
演習で用いた付箋紙の記述を整理・分析し、個別最適な学びと協働的な学び、それぞれを設定できる場面例を、次のように整理しました。

個別最適な学びの視点

- ① 既習の学習内容を確認する場面
- ② 学習課題やめあてを設定する場面
- ③ 情報を収集する場面
- ④ 課題の解決に向けた手立てを設定・選択する場面
- ⑤ まとめや振り返りをする場面
- ⑥ 補充的な学習や発展的な学習に取り組む場面

協働的な学びの視点

- A 交流・共有する場面
- B 協議・討論する場面
- C 整理やまとめをする場面
- D 制作(製作)・表現・実践する場面
- E 発表する場面
- F 教室の枠を越えた学びをする場面
- G 相互評価をする場面



一体的な充実

これらの場面を、授業のねらいに応じて組み合わせ、単元(題材)や授業を構想することにより、一体的な充実が図られていきます。

ICT活用一覧表

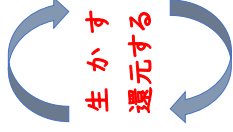
【ICT活用一覧表の見方】

〈例〉

①Aは、「既習の学習内容を確認する」際に、その学習の成果をA「交流や共有をする」活動に生かしたり、さらにその学習の成果を①「既習の学習内容を確認する」活動に還元したりするなど、①とAが往還する学習における活用例（方法）を示す。

個別最適な学びの視点

- ① 既習の学習内容を確認する場面
- ② 学習課題やめあてを設定する場面
- ③ 情報を収集する場面
- ④ 課題の解決に向けた手立てを設定・選択する場面
- ⑤ めあてや振り返りをする場面
- ⑥ 補充的な学習や発展的な学習に取り組む場面



協働的な学びの視点



- A 交流・共有する場面
- B 協議・討論する場面
- C 整理やめあてをする場面
- D 制作（製作）・表現・実践する場面
- E 発表する場面
- F 教室の枠を越えた学びをする場面
- G 相互評価をする場面

個別最適な
学びの視点

協働的な
学びの視点

一体的な充実に向けたICT活用の学習活動例

①		A	既習の学習内容を確認するために、資料やファイルを電子黒板（スクリーン）に投影したり、タブレット端末に配信したりする。 ○学習履歴を確認するために、クラウド上から自由に閲覧できるようにして、必要な資料やファイルを引き出す。
		B	○答えの求め方について確認するために、共同編集機能等で効率的な答えの求め方を協議する。
②		E	既習の学習内容を共有するために、発表者の資料やファイルを電子黒板（スクリーン）に投影する。
		A	○学習課題を設定するために、着目させたい資料や教材をタブレット端末へ配信する。 ○個々の立場を可視化したり意思表示したりするために、学習支援ソフトの位置付け（ポジショニング）機能を活用する。 ○全員が多様な資料を閲覧、共有できるように、授業支援アプリケーションの保存機能を活用する。 ○諸資料、作品、動画等を電子黒板（スクリーン）に映し、気付いたことを比較・共有するために、電子付箋紙機能を活用する。
		B	○新たな問いを引き出すために、前時の振り返りやめあての記述を画面上で共有し、相違点や共通点を見いだす。 ○学級全体の傾向を見るために、投票機能を使って円グラフや棒グラフで統計に表す。
		C	○多種多様な考えや疑問等を整理するために、電子付箋紙機能を活用し、色分けしてグルーピングする。 ○自分の学習課題を整理するために、各自が設定した学習課題を、電子黒板（スクリーン）や学習支援ソフトで共有する。
		D	○学習内容の定着を図るために、教材・教具を使用する際、その使い方の動画をタブレット端末を用いて視聴する。
E	○学習課題やめあてを全体で確認するために、設定の理由についてプレゼンテーションにまとめる。		

個別最適な学びの視点		協働的な学びの視点	
① 既習の学習内容を確認する場面 ② 学習課題やめあてを設定する場面 ③ 情報を収集する場面	④ 課題の解決に向けた手立てを設定・選択する場面 ⑤ まとめや振り返りをする場面 ⑥ 補充的な学習や発展的な学習に取り組む場面	<p style="text-align: center;">か、す 生 遠 元 する</p>	<p>A 交流・共有する場面 B 協議・討論する場面 C 整理やまとめをする場面 D 制作（製作）・表現・実践する場面</p> <p>E 発表する場面 F 教室の枠を越えた学びをする場面 G 相互評価をする場面</p>
一体的な充実に向けたICT活用の学習活動例			
③		A	<ul style="list-style-type: none"> ○ 多様な資料を収集し共有するために、インターネットを活用して調査したり、タブレット端末を活用して撮影したりする。 ○ 多様な思考を導き出すために、観察、実験、体験活動、個別のグループ活動等の様子をタブレット端末で撮影し、共有する。 ○ 活発な言語活動を目指して必要なアイデアを共有するために、電子付箋機能を活用する。
		B	<ul style="list-style-type: none"> ○ 共通点や相違点等と比較・検討するために、学習支援ソフト内の自由に他者のタブレット端末の画面を閲覧できる機能を活用する。 ○ 児童生徒間の自由交流のための情報の提供するために、電子黒板（スクリーン）に全員の考え方をリアルタイムで映す。 ○ 詳細な情報を基に協議や議論を深めるために、タブレット端末やデジタルカメラで撮影したものを資料として提示する。
		C	<ul style="list-style-type: none"> ○ リアルタイムで情報を収集し整理するために、教室で活動する人と学校外で調査活動をしている人をWeb会議ツールでつなぐ。 ○ 授業の見通しをもつために、問題解決の手順を授業支援アプリケーションのカード機能や電子付箋機能を活用してまとめる。 ○ 定点観察や対象物の変容調査のために、動画やコマ送り動画機能で記録する。
		E	<ul style="list-style-type: none"> ○ 視覚的な分かちやすさで情報共有・収集するために、電子黒板（スクリーン）や1人1台端末の画面に書き込みながら発表する。 ○ グループ活動において他者の思考を可視化するために、調査内容を共同編集機能を活用して発表する。
		F	<ul style="list-style-type: none"> ○ 課題解決に必要な考えや意見を知らするために、キーワードで検索をかけたけたり、関連するホームページにアクセスしたりする。 ○ 多面的・多角的な考えや意見を知らするために、Web会議ツールで当事者や専門家等にインタビューをする。
		A	<ul style="list-style-type: none"> ○ 着目した点や考えの根拠を示すため、タブレット端末のデジタル教科書にマーキングしたり、書き込んだりする。 ○ 他者の発想や検証・方法、学び方を取り入れ、課題解決の見通しをもつために、電子黒板（スクリーン）で共有する。 ○ 個で調べた内容を、グループで共有するために、文章作成機能を活用して調べた内容をまとめ、紹介し合う。
④		B	<ul style="list-style-type: none"> ○ 複数ある考えを比較・検討するため、電子付箋機能を活用し、提示された意見を話合いに沿って移動したり色分けしたりする。 ○ よかった点や改善点について話し合うために、体験学習の様子を録画し、動画の繰り返し再生機能を活用する。 ○ 課題解決に向けた建設的な話合いとなるように、作成したプレゼンテーション資料を基に互いの成果を紹介し合う。 ○ 多様な考えを共有するため、同じ課題を設定した教室外（他のクラス等）の生徒と、Web会議ツールで協議する。
		C	<ul style="list-style-type: none"> ○ 協議や討論を受け、取り扱った情報を整理するために、電子付箋機能を使って分類する。 ○ 思考を可視化するために、デジタル思考ツールを活用する。
		D	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分の考えを分かりやすく伝えるために、タブレット端末を活用し、写真や資料に自由に書き込む。 ○ 課題解決につながる多様な意見をまとめるために、共同編集機能を活用し、個の意見を同時に入力して整理する。 ○ 発想・構想のきっかけとすために、個やグループの学習活動をタブレット端末やデジタルカメラ等で撮影し確認する。
		F	<ul style="list-style-type: none"> ○ 解決方法を見通したり、解決方法のヒントを得たりするために、外部講師とオンラインでつながる。 ○ 課題解決のために、Web会議ツールを活用して、外部の人と対話する。
		G	<ul style="list-style-type: none"> ○ 解決に向けた手立てを確認するために、類題を解説した動画を視聴する。 ○ 他者と意見を比較するために、児童生徒の思考過程を記録したものをタブレット端末を活用して画像として残す。 ○ 児童生徒の学習改善に生かすために、撮影したものを電子黒板（スクリーン）に映し出し、全体で共有する。 ○ 互いの発表等の改善点を見つけて出すために、互いのやり取りや発表の様子を録画する。（個人内評価としても活用する。）

【スタート】学習課題：

【ゴール】まとめ：

学習活動

個別最適な学び

協働的な学び

【スタート】学習課題：

【ゴール】まとめ：

学習場面（活動）

個別最適な学び

協働的な学び

スタート:学習課題

ゴール:ねらいを達成した児童生徒の姿

学習場面（活動）	個別最適な学び	協働的な学び	ICTの活用
	スタート:学習課題		
	ゴール:ねらいを達成した児童生徒の姿		